

仙台学長会議 加盟大学

学長十九名が連携

新規学卒者採用支援を要望

六月十五、二十三日、七月二、七日の日程で、宮城県内の大学が加盟する仙台学長会議の代表として、本学の東西晴樹学長が、昨年度に引き続き、宮城県商工会議所連合会をはじめとする経済五団体、宮城労働局、仙台市、宮城県を訪問し、新規学卒者採用における支援に対する「要望書」を手渡した。

今回の要望の目的は、新型コロナウイルス感染症の影響で学生の就職が困難な状況が続いている中で、懸命に就職活動を行っている学生をサポートすることである。

具体的には昨年度同様、最新の就職情報を学生に広く提供いただくこと、ウェブ面接はもちろん、面接官と学生が直接対面することを含めた総合的な面接の機会を設けていただくこと、就職活動が長引いていることを念頭に、採用選考期間を延長していただくこと、新型コロナウイルス感染症拡大防止に伴い、学

生たちは平日の授業スケジュールが過密状態にあることから、休日にも採用試験を実施していただきたいこと、の四項目について要望した。

東西学長は「新型コロナ

の影で学生の就職が妨げられてはなりません。昨年度も要望にご協力いただき、宮城労働局の統計では二〇二二年三月末現在の新規大卒者就職率は九十三・五％(前年比二・八ポイント減少)と大きく落ち込みました。学長会議では、宮城県内の学生が地元で就職することが、地元経済に安定性をもたらすとして、

産官学が一体となった宮城県の教育、文化経済を強めていくことができたかと考えています」と話した。

また、本学を含めた十七の事業協働機関で連携する「みやぎ・せんだい地域人材育成協議事業プラットフォーム協定」においても、宮城県内で学び、卒業した学生が地元への就職を選択し、活躍できるための取り組みも実施している。

ラーハウザー記念東北学院礼拝堂において東北学院大学体育会二〇二二年度入会式が六月十日、執り行われた。根市一志体育会会長から、新入生代表の菊田祐大さん(空手道部)に入会許可証が授与され、菊田さんは宣誓で「我々は、体育会会員としての体面を重んじ、各部の活動に精励し、東北学院大学の名声を上げるため、最善を尽くします」と述べた。

その後、根市会長から訓示があり、東西晴樹学長、千葉智則学生部長、高橋優第七十一代幹事長があいさつ。応援団からのエールをもって入会式は幕を閉じた。

東北学院のスポーツ活動は大正八年から盛んになり、専門部時代の同年に陸上競技部が創設され、その後、柔道、硬式野球、サッカーと部の結成が相次ぎ、昭和二十四年に東北学院専

門学校から新制大学に昇格した後の昭和二十六年に体育会が結成された。現在は四十三の部があり、全学年合わせて千八百(うち、一年生は二百七十六名)の学生が所属している。

東北学院大学 体育会入会式



佐瀬一弥・三戸部佑太准教授 郡和子仙台市長に 「津波防災まちづくりゲーム」の開発状況を報告

工学部機械知能工学科の佐瀬一弥准教授と工学部環境建設工学科の三戸部佑太准教授が7月7日、仙台市役所を訪れ郡和子仙台市長に「VR・AR技術を用いた津波防災まちづくりゲーム」の開発状況を報告した。

このゲームは津波から街を守ることをゴールとして、仮想的な街において堤防や避難路、防災無線などの防災・減災対策を行い、それをもとに津波の数値をシミュレーションし、その結果が得点化される。

両准教授と学生らで構成するチームが開発し、「科学の“プロセス”を子どもから大人まで五感で感じられる日」をコンセプトとした体験型・対話型の科学イベント「学都

『仙台・宮城』サイエンス・デイ』において、「サイエンス・デイ オブザイヤー2019(仙台市長賞)」を受賞した。

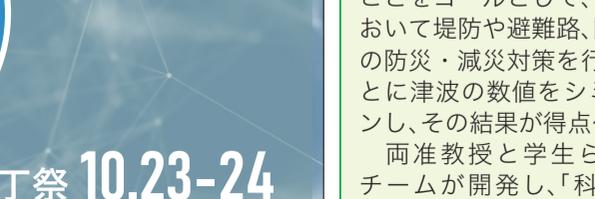
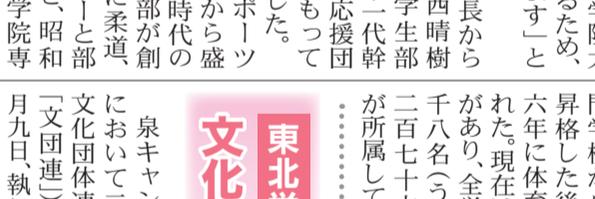
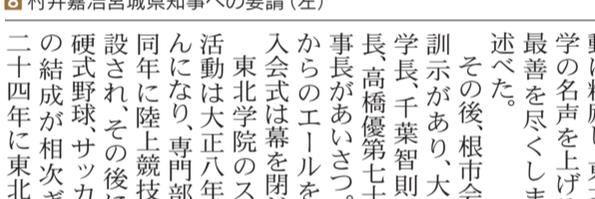
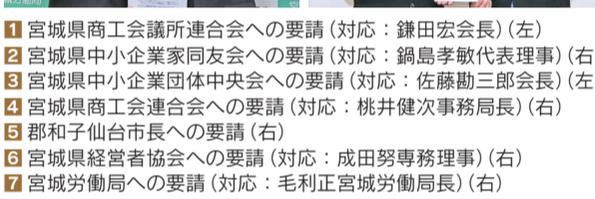
両准教授は受賞後も開発を続け、今回さらなる進化の内容を報告することとなった。ゲームを体験した郡市長は「このゲームが、是非多くの方々に使っていただけるようになれば」と語った。



六月二十四日、土樋キャンパスにおいてTGAアナウンサー対策講座の初回を開催した。

この講座は大学がtbcアナウンス学院(tbc A z株株式会社)に協力を依頼して今回初めての実現となった。アナウンサーを志す学生向けだが、カリキュラムの内容としては、「読む」「伝える」「表現力」といった能力を高めるための講座で、一般企業を志望する学生にとっても非常に役立つ内容になっている。

基礎編と応用編に分けて二十五回の講義を予定しており、その中で発音練習や自



1 宮城県商工会議所連合会への要請(対応: 鎌田宏会長(左))
2 宮城県中小企業家同友会への要請(対応: 鍋島孝敏代表理事(右))
3 宮城県中小企業団体中央会への要請(対応: 佐藤勤三郎会長(左))
4 宮城県商工会連合会への要請(対応: 桃井健次事務局長(右))
5 郡和子仙台市長への要請(右)
6 宮城県経営者協会への要請(対応: 成田努専務理事(右))
7 宮城労働局への要請(対応: 毛利正宮城労働局長(右))
8 村井嘉浩宮城県知事への要請(左)

己分析、原稿読み、面接対策などを行う。

基礎編を担当する栗津ひる先生は、本学の出身で元東北放送アナウンサー。現在はtbcアナウンス学院で講

まずはアイスブレイクとして簡単なゲームを行い、負けた学生の罰ゲームは、なんと栗津先生のインタビュアーによる「ヒーローインタビュー」。

栗津先生からの様々な質問

るための原稿読み。学生たちは慣れない中でも指で原稿をなぞりながら読むなど一生懸命な姿を見せ、講義の最後には全員が席から立ち、お腹に手を当て、正しい腹式呼吸ができていないか確認しながら栗津先生の手本に続けて発声を繰り返した。

栗津先生は講義の中で、就職活動を乗り越えるためには仲間の存在が大切であると話した。参加した四名の学生には計二十五回の講座を通して様々な能力を高めていくことはもちろん、ともに学び合った仲間としての絆を育んでほしい。

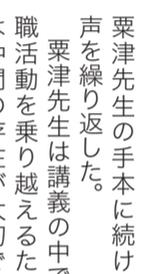
泉キャンパス礼拝堂において二〇二二年度文化団体連合会(以下、「文団連」)入会式が七月九日、執り行われた。

水谷修文団連会長があいさつし、東西晴樹学長や千葉智則学生部長らによる祝辞の後、新入生代表による抱負では、演劇部に所属する箭内子龍さんが「文団連の一員としての自覚をもち、今後のサークル活動に励んでいく所存です。私が所属する演劇部は、昨今のコロナウイルスの影響を強く受けており、例年通りの活動が難しくなっています。しかし、感染リスクの軽減や演劇の新しい波に負けぬよう懸命に取り組みでまいりま

す」と述べた。

文団連は七月一日時点で二百二十三名の一年生がおり、全学年合わせて六百三十四名の学生が所属している大規模な組織。計二十七の文化系クラブ・サークルからなり、これらのクラブ・サークルに入部することは、そのまま文団連に入会することになる。

アナウンススキルで磨く就職力 TGAアナウンサー対策講座開講



六月二十四日、土樋キャンパスにおいてTGAアナウンサー対策講座の初回を開催した。

この講座は大学がtbcアナウンス学院(tbc A z株株式会社)に協力を依頼して今回初めての実現となった。アナウンサーを志す学生向けだが、カリキュラムの内容としては、「読む」「伝える」「表現力」といった能力を高めるための講座で、一般企業を志望する学生にとっても非常に役立つ内容になっている。

基礎編と応用編に分けて二十五回の講義を予定しており、その中で発音練習や自

己分析、原稿読み、面接対策などを行う。

基礎編を担当する栗津ひる先生は、本学の出身で元東北放送アナウンサー。現在はtbcアナウンス学院で講

まずはアイスブレイクとして簡単なゲームを行い、負けた学生の罰ゲームは、なんと栗津先生のインタビュアーによる「ヒーローインタビュー」。

栗津先生からの様々な質問

るための原稿読み。学生たちは慣れない中でも指で原稿をなぞりながら読むなど一生懸命な姿を見せ、講義の最後には全員が席から立ち、お腹に手を当て、正しい腹式呼吸ができていないか確認しながら栗津先生の手本に続けて発声を繰り返した。

栗津先生は講義の中で、就職活動を乗り越えるためには仲間の存在が大切であると話した。参加した四名の学生には計二十五回の講座を通して様々な能力を高めていくことはもちろん、ともに学び合った仲間としての絆を育んでほしい。

泉キャンパス礼拝堂において二〇二二年度文化団体連合会(以下、「文団連」)入会式が七月九日、執り行われた。

水谷修文団連会長があいさつし、東西晴樹学長や千葉智則学生部長らによる祝辞の後、新入生代表による抱負では、演劇部に所属する箭内子龍さんが「文団連の一員としての自覚をもち、今後のサークル活動に励んでいく所存です。私が所属する演劇部は、昨今のコロナウイルスの影響を強く受けており、例年通りの活動が難しくなっています。しかし、感染リスクの軽減や演劇の新しい波に負けぬよう懸命に取り組みでまいりま

す」と述べた。

文団連は七月一日時点で二百二十三名の一年生がおり、全学年合わせて六百三十四名の学生が所属している大規模な組織。計二十七の文化系クラブ・サークルからなり、これらのクラブ・サークルに入部することは、そのまま文団連に入会することになる。

す」と述べた。

文団連は七月一日時点で二百二十三名の一年生がおり、全学年合わせて六百三十四名の学生が所属している大規模な組織。計二十七の文化系クラブ・サークルからなり、これらのクラブ・サークルに入部することは、そのまま文団連に入会することになる。

す」と述べた。

文団連は七月一日時点で二百二十三名の一年生がおり、全学年合わせて六百三十四名の学生が所属している大規模な組織。計二十七の文化系クラブ・サークルからなり、これらのクラブ・サークルに入部することは、そのまま文団連に入会することになる。